

『その「ばっちりですね」は、何と比べて?』

塾・家庭教師に通わせている中学生の親が、続ける・替える前に先生に聞くこと（高校受験） 竹内 勇人

本の資料編の資料1～4を、印刷できる形にしたものです。中身は本と同じです。書き込めるように、チェックの□と記入欄を足しました。

資料1 頼む前に、親と子が別々に答える問い（第6章）

同じ問いに、親と子が別々に答えます。答え合わせは、両方が書き終わってからにします。

■ 親と子の両方に聞く

問い	親の答え	子の答え
いちばん行きたい学校はどこか		
その学校を選ぶ理由は何か		
いま困っていることは何か		
どうなりたいか		
苦手な科目は何か		
推薦入試を考えているか		
平日に、実際に勉強している時間はどのくらいか		
休日に、実際に勉強している時間はどのくらいか		

■ 親にだけ聞く

問い	親の答え
教育費は、月にいくらまで出せるか	
教育費を増やせる余地はあるか	
祖父母などの援助は、決まっているか	

これから成績が上がることを、前提にしているか	
進路の話を、いつ、誰から、事実として聞いたか	

■ 子どもにだけ聞く

問い	子の答え
部活は何曜日で、何時に終わるか	
部活を引退するのはいつか	
この1か月で、予定していたのにできなかった日は何日あったか	

■ 並べたら見るところ

- ☐ 行きたい学校に向けて要る回数と、出せるお金が合っているか
- ☐ 残りの期間で、やらなければならない量が終わるか
- ☐ 部活や習い事のあとに、勉強の時間が取れるか
- ☐ 親と子、父と母で、高校を選ぶ物差しが同じか
- ☐ まだ決まっていないことを、決まったこととして計画していないか
- ☐ 学校、塾、家で聞いた話が、食い違っていないか
- ☐ 子どもが言う勉強時間と、実際に勉強している時間が合っているか
- ☐ 成績の数字が、定期テストのものか、模試のものか、分かっているか

面談には、聞きたいことを書き出して持っていくます（第1章）。下の中から、いまの家庭に要るものだけを選んでください。

■ 5つの質問：いまの先生にも、始める前にも（第3章）

- ☐ 1. 「いまのうちの子を、どう見ましたか」（いま通っているなら「どう見えていますか」）
- ☐ 2. 「結果が出るまで、どのくらいかかりそうですか。何で、いつ見ればいいですか」
- ☐ 3. 「前と比べて変わったことを、何で、どのくらいの間隔で知らせてもらえますか」
- ☐ 4. 「先生にできること、できないことは、どこまでですか。授業の外は、どこまでお願いできますか」
- ☐ 5. 「お休みや遅刻のとき、授業料はどうなりますか。親がいないときに大きな判断が要ったら、どうしますか」
- ☐ 授業が週1〜2回なら：「授業と授業のあいだは、何をどうすればいいですか」
- ☐ 塾なら：「教えている先生は替わりますか。替わったときに、記録は引き継がれますか」
- ☐ 連絡や相談への返事が、どのくらいで来るか（第9章）

■ 会社やサイトを通すとき（第7章）

- ☐ 紹介された先生が、何を根拠に選ばれたか（資格、受け持った経験、そのときにどう対応したか）
- ☐ 値段のうち、先生に渡る分と、運営やサポートの分はどれくらいか
- ☐ もめたときに、誰が間に入るか。サポートは何をしてくれるか

■ 通い始めてから（第1章・第2章）

- ☐ 「うちの子、どうですか」と聞く前に、成績、授業の様子、宿題のどれを聞きたいかを決める
- ☐ 「具体的には、前と比べて何が変わりましたか」
- ☐ 「宿題が分かっているかを、いつ、どう確かめていますか」
- ☐ 「先生がどれだけ手を貸していますか。遅れたところは、どこで振り返りますか」
- ☐ 「模試で見つかった穴は何ですか。それをどう埋めていきますか」
- ☐ 「この子が『できた』と言った単元は、何で確かめていますか」
- ☐ 1か月ほどたったなら：「前に言われた件、その後どうになりましたか」
- ☐ 3か月目は、定期テストの点差だけで決めず、同じ種類の模試や、同じ単元の問題で比べてもらう

■ 塾で、教室長と教えている先生が違うとき（第2章）

- ☐ まず「教えている先生と話せますか」と聞く。直接がいちばん。遠ければオンラインか電話、苦手ならメールやLINE（後のものほど受け取れる情報は減る）。断られたら黄色信号。聞いた言葉は書いて残す

- ☐ 集団塾なら：教科のことはその教科の先生に／面談では、いちばん分かっている先生と話したいと頼む／塾内テストは、基本の問題を落としていないか
- ☐ 聞きたいことを、教室長の分と、教えている先生の分に分けて書いておく
- ☐ 教室長に、届いたレポートを手に：「ここに載っているデータのほかに、何か分かることはありますか」
- ☐ 教えている先生に：「最近の授業の様子はどうですか」
- ☐ 1対2や1対3なら、うちの子に説明してもらう時間と、待っているあいだにしていること
- ☐ 教えている先生が替わったら、前の先生からの引き継ぎがされているか
- ☐ 2人の答えを並べて、前と比べるのは親
- ☐ 親が知っている子どものこと（くせ、考え方、得意・苦手。見た範囲で）を書いて持っていく（第5章）

■ 家で確かめること（第1章・第2章・第9章）

- ☐ 子どもが、何も見ないで、どの科目のどの単元ができていないかを言えるか
- ☐ その日に習ったことを、白紙に書き出してもらう（用語だけでもいい）
- ☐ 書いたものを使って、親を相手に授業をしてもらう（親は聞くだけでいい。親に話すのを嫌がる年ごろなら、白紙を先生に見せるだけでいい）
- ☐ その白紙を、先生と確かめるときのたたき台にする
- ☐ 週に1回でも毎日でも、分かったことと、分かっていないと思うところを書き出してもらう（教科ごとに5つずつくらい）。3か月続けて、テストの結果と合っているかを見る
- ☐ 3か月で、分かっていないところを先生に聞けず、解決もできていない。または、子どもが分かった・分かっていないを分けられない、塾が探してくれない。どれかなら黄色信号
- ☐ 定期テストの答案、問題用紙、平均点を残しておき、先生に渡す

■ 講習や追加のコマを勧められたら（第6章・第9章）

- ☐ 「いま、どこがまだ不十分ですか」
- ☐ 「夏休みなどに、どれだけ勉強の時間を取れる前提ですか」
- ☐ 「自分で進めるところと、講習や追加のコマで補うところは、どこですか」
- ☐ 「どれだけの回数とお金をかけると、どこを解消できますか」
- ☐ 講習では、どんな授業で、足りないところにどう手を入れるのか
- ☐ なぜそれを勧めるのか、その根拠

■ 替える前、やめる前に（第5章）

- ☐ 先生に、うまくいっていない原因をどう見ているか
- ☐ 子どもが「やめたい」と言ったら：先生が嫌なのか、勉強が嫌なのかを分けて、「なぜ」と「何が」を一緒に探す

- ☐ 子どもが「友達がいるから続けたい」と言ったら：なぜうれしいのかを聞き、目標を一つ決める
- ☐ 夫婦で意見が割れたら：どちらの組の対立か／お金そのものか、結果だけで見ているか／何のために続けるか／確かめる時間が残っているか
- ☐ 中3の秋に替える、足すなら：替える理由／なぜ今か／替えた先が合わなかったらどうするか、を先に子どもと決める
- ☐ 先生を替えた回数より、その子に合うやり方が分かっているかを見る。塾の都合で替わったなら、理由と引き継ぎを聞く
- ☐ いつまでに結果が出なかったら、という期限を、家族でざっくり決めておく。テストの前には、子どもと目標を決めておく
- ☐ 変更をお願いして、逆に怒られたり、根拠なく不安をあおられたりしたら、赤信号
- ☐ 中2で替えるなら、単元の途中は避けて、切りのいいところで
- ☐ 次の形は、その子の制約で選ぶ：自分で質問できるならどこでも／自分の管理ができないなら少人数か1対1／自分から質問できないなら1対1
- ☐ 替えた先では、新しいやり方に慣れる必要がある。やり方を変えるよう言われるかもしれない。それを子どもに伝えておく
- ☐ 次を選ぶなら：よくないことも先に話してくれるか／お金の仕組みがはっきりしているか（あとから管理費やテキスト代、別のプランが出てこないか）／成績のほかに、その子のこれまでの勉強のやり方やまわりの事情を、初回の体験や面談で探してくれるか
- ☐ 面談に行けない父親は：お母さんが何を聞けたかを確かめ、聞けなかったことを次に聞く一覧に足す
- ☐ やめると伝えるとき：理由を言う義務はない。言うなら、正直に

私がある家庭に渡した紙を、家で使える形にしたものです。いまの勉強の計画は、そのまま続けます。足すのは、次の2つだけです。ねらいは、「やった」と「できた」を分けることです。

■ 「やった」と「できた」を分ける

ワークを解いたら、ふせんに3つ書いて「やった」に貼る
解いた日／教科とページ／確かめる日（解いた日の3日後）

確かめる日に、答えを見ないで、同じページをもう一度解く

全部できた

ふせんを「できた」に動かす。そのページの毎日のやり直しは、ここで終わり

間違いがあった

間違えた問題の番号を書き足して、「やった」に残す。確かめる日を、また3日後に

週に1回

分からなかった問題を、写真1枚で先生に送る。
なければ「なし」とだけ送る

親の役目は、週に1回ふせんを見て、確かめる日を過ぎたものがあれば一声かけるだけ

■ 1. ふせんを「やった」と「できた」に分ける

- ☐ ワークを解いたら、ふせんに3つ書いて、「やった」の場所に貼る：解いた日／教科とページ／確かめる日（解いた日の3日後）
- ☐ 確かめる日に、答えを見ないで、同じページをもう一度解く
- ☐ 全部できたら、ふせんを「できた」に動かす。そのページの毎日のやり直しは、ここで終わり
- ☐ 間違いがあったら、間違えた問題の番号を書き足して、「やった」に残す。確かめる日を、また3日後に書き直す。間違えた問題は、毎日やり直す
- ☐ 「できた」に動かせるのは、確かめる日に、答えを見ないで解けたときだけ
- ☐ 学校のワークに答えを書き込んでいるときは、1回目はそのまま書き込んでかまいません（提出物で、内申に関わるため）。確かめる日は、自分の答えをふせんで隠して、ノートに解きます。コピーは要りません。最初の答えとノートの答えを並べれば、それが差の記録になります

■ 2. 週に1回、分からなかった問題を先生に送る

- ☐ 写真1枚でいい。分からない問題がなければ、「なし」とだけ送る

- ☐ 次の授業で、その問題から一緒に確かめてもらう

■ 誰が、何をするか

- ☐ 本人：ふせんを書いて貼る。確かめる日に、答えを見ないで解く。週に1回、先生に連絡する
- ☐ 親：週に1回、ふせんを見るだけ。見るのは1つ、確かめる日を過ぎたまま「やった」に残っているふせんがないか。あれば「確かめる日、過ぎてるよ」と一声。ほかの声かけは要りません
- ☐ 先生（頼めるなら）：授業で「できた」のふせんから2枚選んで、何も見ずに解いてもらう。送られた問題を一緒に解く

先生のところは、塾や家庭教師に頼めるなら頼みます。

■ 先生に頼めないときは

- ☐ 親が、「できた」のふせんから2枚を、子どもが選ばないように引く。中身は分からなくてかまいません。答えを見ないで解いてもらい、解答と照らして、○か×かだけを見ます。説明も注意もしません
- ☐ 分からない問題は、塾の質問の時間や自習室に持っていく。週1回の連絡は、塾で聞けたか、聞けなかったか、に置き換えます
- ☐ 写真1枚を受け取る窓口すらない塾なら、それ自体が判断の材料になります（第2章の黄色信号）

親が教えてしまうと、大人が先回りして手を貸すことになります。親の役目は、ふせんを見る、引く、照らす、一声かける、だけです。

■ 2週間たったら、3つで見直す

- ☐ 1. 確かめる日を過ぎたまま止まっているふせんが、1枚以下だった
- ☐ 2. 先生（頼めないときは親）が選んだ「できた」のふせんで、何も見ずに解けた（2週間で4枚のうち、3枚以上）
- ☐ 3. 週に1回の連絡が、毎回届いた（「なし」も1回に数える。頼めないときは、塾で聞けたか）

■ 2週間たったら、3つで見直す

- 1 確かめる日を過ぎたまま止まっているふせんが、1枚以下だった
- 2 「できた」のふせんから選んだ問題を、何も見ずに解けた（2週間で4枚のうち、3枚以上）
- 3 週に1回の連絡が、毎回届いた（「なし」も1回に数える）

3つとも「はい」

「説明できた」を足す

週末に10分。白紙に解き方を書き出して、親に説明する

「いいえ」があった

そこだけ、やりやすく直す

直したら、また2週間後に同じ3つで見直す

■ 3つとも「はい」なら：「説明できた」を足す

- ☐ ふせんの場所を、「やった」「できた」「説明できた」の3つにする
- ☐ 週末に1回、10分だけ。「できた」から1枚選び、何も見ないで白紙に解き方を書き出す（5分）。それを親に説明する（5分）
- ☐ 親は「なんで？」「それってどういうこと？」と聞くだけ。中身が分からなくても大丈夫です
- ☐ 説明できたら「説明できた」へ動かす。詰まったところは、週1回の連絡で先生に送る

■ 「いいえ」があったら：そこだけ、やりやすく直す

- ☐ 1が「いいえ」（ふせんが止まった）：確かめる日を、曜日で決める（たとえば木曜と日曜）。日付を数えなくてよくなる。確かめるのを数学と英語だけにする
- ☐ 2が「いいえ」（先生の前で解けなかった）：確かめるときは、答えもノートも教科書も閉じて、ワークの問題だけを見て解く。先生の前で解けなかったふせんは、「やった」に戻す
- ☐ 3が「いいえ」（連絡が届かなかった）：連絡する日の夜に、親が「先生に連絡した？」と一声だけかける
- ☐ 3つとも「いいえ」：まずは、ふせんだけにして、もう2週間。連絡は、そのあとに足す

直したら、また2週間後に、同じ3つで見直します。やりにくいところがあれば、決まりのほうを変えます。

見直しの結果は、次の形選びにも使えます（第5章の「1対1、1対2、集団、どれにする？」）。

- ☐ 学校の成績表（中学生なら、できれば中1から）
- ☐ 模試の成績表（最初に受けたものから、ファイルにまとめて）
- ☐ いま使っているテキスト、またはその一覧
- ☐ 数学や英語など、いくつかの教科のふだんのノート
- ☐ 先生が替わってきた理由と、何を解決したいか
- ☐ 塾から移るときは、塾のテストの結果も

模試の結果は、封を開けずにしまっているだけでも、とっておけば経過を追う材料になります。
